

JOUHOKU SHINDAN 誌

～第18号 スプリングフォーラム 支部イベント～

2016年4月28日

今回は、4月16日（土）に開催されましたスプリングフォーラム2016の第3部城北支部イベントについて2015年入会診断士（登録1年目診断士）として支部を紹介して下さった遠藤康平先生の報告です。

スプリングフォーラム2016 城北支部イベント ～答えは、城北にある～

執筆：遠藤 康平

当日は、次のようなメニューで開催されました。

- ・城北支部の概要
- ・動画上映（インタビュー映像の放映）
- ・2015年度に城北支部に入会した会員の発表
- ・企業内診断士フォーラム、城北プロコン塾の紹介
- ・グループごとに分かれての質問大会
- ・支部長挨拶

●城北支部の概要について

司会の松本青年部長から城北支部の概要について説明がありました。

他支部では会員数が減少している中、城北支部の会員数が近年急増している状況にあります。スライドの中では会員数の伸び率、他支部との比較により城北支部の勢いが伝わってきました。

●動画上映について

企業内診断士、独立診断士それぞれの立場からの内容となっています。

企業内診断士のパートでは商店街支援でご活躍の鵜頭誠先生が登場。企業内診断士が活躍できるフィールドについてお話いただきました。

独立診断士としては松原和枝先生のインタビューが放映されました。もともとご自身で企業を運営されてきた松原先生ですが城北支部の縁で仕事の幅が広がったという体験を語っていただきました。

●2015年入会の会員発表について

登録一年目の診断士としては私、他支部からの移籍者として日景聡先生が登場しました。

私は2015年度のイベント、東京協会主催「一年目の会」幹事として、城北支部からの出席者数が高支部を上回ったことを報告しました。

日景先生からは、城北支部の特長として、「情報がオープンであること」の説明がありました。その一例として、部長会の議事録が全会員に開示されていることを挙げられました。

●企業内診断士フォーラム、城北プロコン塾について

企業内診断士フォーラムからは稲葉寛先生が登場されました。

企業内診断士フォーラムが提唱する「ハイブリッド・コンサルタント」という概念についてご説明いただきました。

企業に勤めながら、休日などを活用して診断士としてご活躍の先生方が城北支部には多数いらっしゃいます。企業内診断士フォーラムは、その主要な活動母体です。

続いて、城北プロコン塾からは能力開発推進部長の廣部光紀先生からご説明いただきました。城北支部が誇るトッププロがそのノウハウを余すことなく伝授する密度の高いカリキュラム、一年間をかけて自身の商売道具を作りあげる「卒塾レポート」といった盛りだくさんの内容となっています。なお、次期（第四期）城北プロコン塾は好評なので現在はキャンセル待ちの状況となっております。

●質問大会について

質問大会では、私を含め登録2年目の診断士が司会進行を務めました。新入会員の方からは積極的にご質問いただきました。私が次期城北プロコン塾の事務局を務めていることから、独立開業について突っ込んだ質問などもありました。会員数が急増する城北支部の勢いを肌で感じる濃密な時間となりました。

●支部長挨拶について

支部イベントの締めは朝倉支部長からのご挨拶でした。診断協会をプロの経営コンサルタントが多数在籍する巨大な「コンサルティングファーム」と捉える、大きな視点でのお話をいただきました。また、プロの経営コンサルタントとして受注獲得を優先するのではなく、適切な対価を受け取ることの重要性についてもご指摘がありました。

当日は、広い会場を100名ほどの診断士が埋め尽くす活況ぶりでした。企業内でも、独立でも答えは、城北にある。支部イベント会場の入り口付近に立てられていたのぼりの謳い文句とおりの内容でした。運営に携わられた会員部、ならびに青年部の諸先生がたのご尽力で城北支部イベントは大成功を収めることができました。

ミニコラム ～街おこしについて思ったこと～

執筆：岡本 陽介

先日、昼にテレビを見ていたところ、10年前から銀座のビルの屋上でミツバチを飼っているという話題が取り上げられていた。ここで採れたハチミツは、銀座の料理人たちによってさまざまなグルメに仕上げられているという。パティシエが和洋問わずさまざまなスイーツに、レストランではハチミツピザが、バーではハチミツカクテルが、銀座ハチミツを使ったグルメは15品目を超え、いわゆる“地産地消”が実現しているという。その他にも、9年前“Bee ガーデン”なるミツバチが立ち寄れる場所を造ろうと、デパートの屋上に花を植えたところ、銀座の人たちが次々と屋上に農園を造り、その数は現在12か所にまで増えたという。栽培したサツマイモは銀座産の焼酎に、ミツマタの枝からはアートの街らしく和紙へ、屋上に水田を造り、採れたお米から日本酒を作るなど、屋上から新たな銀座の名産が生まれているという。「銀座ミツバチ物語」（時事通信社）という本が出版されていて読んでみたところ、以前、地域支援に参加したときのことが思い出された。診断士として行った当時の手法を否定するわけではないが、一過性のイベントで終わらず長続きする地域振興になっていたのか？という反省点が出てきた。

●ニーズやデータに縛られていない

かつて、地域支援策を考えていたとき、周辺住民や来街者へのアンケートを行い、その中から最も多いニーズや幅広いニーズに対応できる施策を皆で考えた。結果として出た具体策は、総花的で、「よくあるニーズを満たした」もので、よその地域にもありがちな街おこしになっていた気がする。しかし、この事例を知ったとき思ったのが、「銀座でミツバチを飼って、そのハチミツを堪能したい」というニーズが住民（この場合、事業者も含む）や来街者から出てきたらどうか？また、診断事案のように、実現可能性や

効果の明示を求められる中では、「住民の反対がないか」「養蜂が成功し採算ベースにのるだけの採蜜の可能性はあるか」などネガティブな要素が目につき、スタートすらできていなかったと思う。現に銀座のプロジェクトでは、「とりあえず少しだけ飼います」ということで近隣の理解を得るところからはじまり、周りの人たちは「何かおかしいことをやってるな。」という感じで見えていたそうだが、良質の蜜が採れ始めた頃から、興味・賛同が得られるようになったという。ニーズやデータにとらわれ過ぎると面白味のないものが出てくる可能性があることを感じた。

●必然性のあるシーズがある

銀座で養蜂を始めるキッカケは、ある養蜂家が「銀座はミツバチを育てやすい」と言ったことからだという。その理由は、①ミツバチの行動範囲である半径2キロ以内に皇居・日比谷公園・浜離宮といった年間を通してさまざまな花が咲く蜜源が豊富であること、②大都会周辺には畑がなく、ミツバチが嫌いな農薬が少なく、都会だけにスズメバチなど、敵に遭遇する可能性が少ない、③銀座ルールといわれる56メートルを超えるビルが建設できないため、屋上は日当たり・風通しが邪魔されず巣箱を置くには最適、などの条件があるという。これは、完全に銀座の“地域特性”を活用したもので、銀座で養蜂を行う必然性となっている。これが地域特性を無視した、“とってつけたような”施策だったら、10年も続いていないと思われる。

●多くの人の参画を最優先にしていけないことが、逆に多くの人を巻き込んだ

銀座では、ミツバチがキッカケでさまざまな人の交流が活発化している。ハチミツを使う飲食店のほか、画材屋の屋上でミツバチのための屋上農園になったり、銀座のクラブのママさんたちが屋上の農作業を手がけたりするほか、全国各地の農産物を銀座の屋上で栽培することで地域のPRを行ったり、銀座はもちろん全国への交流の輪を広げている。このプロジェクトは数人の有志の「無謀な挑戦」から始まったものらしいが、仮に地域の人たちの総意に基づいた同意を得て、地域の皆が参加できることを始めようとした場合、「都会で屋上養蜂」という案はあがってこないだろうし（最近では、都内でも結構やっているらしい）、成功するとも思えぬ「屋上養蜂」に、多くの人に参加するとも思えない。数人ではじめた、多くの人達の参画をベースにした地域振興策ではなかったからこそ、後から多くの人に参加する余地があったのだと思う。

銀座というやや特殊な地域での事情ではあるが、街おこしの1つの形として、参考になる事例であると思った。

*参考：「銀座ミツバチ物語」「銀座ミツバチ物語 Part2」時事通信社

【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

②皆さまが知りたいことを教えて下さい

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
 - ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。
- ⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

③読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

④本誌編集スタッフ募集中

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部： johoku.kouhou@gmail.comまで よろしくお願ひ致します

JOUHOKU SHINDAN 誌

～スプリングフォーラム 支部イベント～

2016年4月28日発行

発行者：城北支部長 朝倉久男

編集者：城北支部 広報部